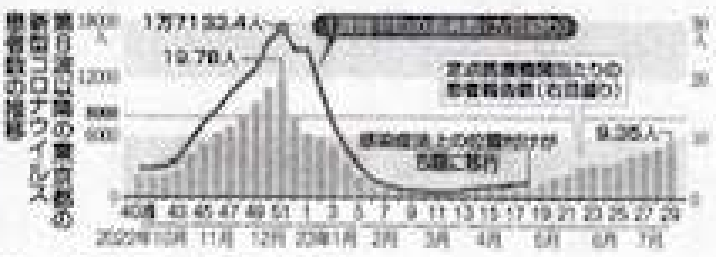
東京新聞
2023年（令和5年）7月30日 日曜日
中日新聞東京本社

都内コロナ「1日8000人規模」推計

昨年11月第8波の初期並み



感染じわり増加 エンデミックか

感染が続く東京都内で、新型コロナウイルスの感染がじわりと広がっている。都医師会の専門家は感染状況を「（感染が急拡大した）昨年十一月ごろの第八波の入り口と同様だ」と説明。これまでと比べて増加の要因が明確でなく、感染の対策に苦慮している。（吉岡潤、伊藤弘喜）

都の二十七日の発表では、新型コロナの直近一週間（十七～二十三日）の定点医療機関当たりの患者報告数は、感染症法上の五類移行後で最多の九・三五人。都が分析を依頼した専門家は「感染者などへの厳格な対応は終了」とした。

「全数把握」だった五類移行前と比べて、感染は「氷山の一角」とされるが、都の担当者は「実際の感染者数の傾向は把握できる」と話す。

一方、都内の病院では救急搬送の受け入れ困難が相次ぐ。都は「軽症患者の増加が一因」とするが、第八波では感染者数が十一月上旬以降に急増し、十二月下旬に二万人を超えたが、今は伸び方が緩やかで「今後は『エンデミック』となる可能性がある」と説明する。

ただ、病棟ではむしろ上昇に感染が急拡大した。「都内でも第八波で感染した人の免疫力が落ちる。都内でも病棟のように感染が急拡大する可能性もある」と説明を注視するという。

二十四日時点の入院者数は二万四百五十四人。内訳は「軽症・中等症」が九千五百九十八人、「重症」は「重症はしていない」と説明。

救急搬送が困難な事例について、都は「救急隊から病院に受け入れを断られるが、二十分以上決まらない『東京ルール』の適用は二四八・七件と高い水準のまま推移している。原因は基礎疾患の増加にある。感染が高い状態が続き、医療者の『熱中症疲労』アラート（二十九日まで）に準じて十四段階で表され、今夏は昨年までの十段階を超えるのは確実。熱中症で運ばれた患者が新型コロナの検査で陽性になる場合もあり、救急外来では感染対策に人手や時間を要している。

都は、都新型コロナ相談センター（フリーダイヤル〈0120〉0570343）などの利用を呼びかけている。

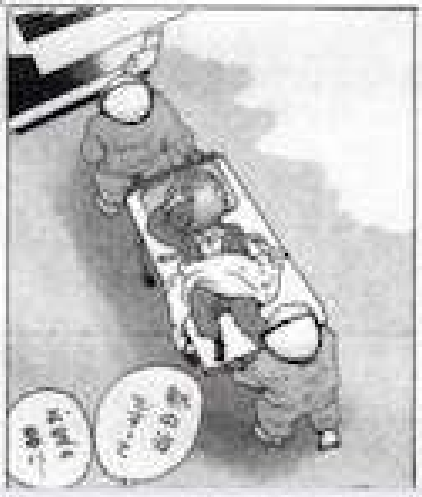
高齢者感染増 病院パンク 受診断念も

「救急が通いつかない状況に」。東京都北区の「いとう王子神谷外科内科クリニック」の伊藤理恵院長は、新型コロナ患者対応の現状を語った。一日当たり平均の倍増で、感染などのため救急を断られた人などもお四十人ほどいる。

「重症にしては、第八波のピークに向かって」

キャンセル待ちや予約を諦めた人などに受診をあきらめた人などもお四十人ほどいる。

「重症にしては、第八波のピークに向かって」



エンデミック

インフルエンザなどのように、感染症の患者が一定の地域で一定の季節に繰り返し発生すること。通常よりかなりの患者が一定期間に急に増えるとエピデミックと呼ばれる。さらに患者が地域や国、大陸を超えて広範囲で同時期に発生するとパンデミック（世界的大流行）となる。

池江 世界水泳で7位入賞

自由形公表から4年あり。競泳の池江璃花子が世界選手権の女子50メートルバタフライ決勝で7位入賞を果たした。

首相会見、質問指名数 大きな

サンデー

暮らしのヒント

テレビ・ラジオ
暮らし 地域ニュース スポーツ
社説・意見 囲碁・将棋